

PRESS RELEASE

ギャラリー小柳 展覧会のご案内

青柳龍太 | sign

2019.8.3 (土) - 9.27 (金)



数千個の重い荷物をただ運び続けるという作業の夜勤明けで疲れた足を引きずって、  
海沿いの倉庫から駅までの道を30分以上かけて毎朝歩いていた。  
トラックは通るけれども人は歩いてはいない道。

ある朝、ある石を見つけて、僕は立ち止まった。  
それが一つだったならば、僕は気がつかなかった。  
それが二つでも、きっと僕は見逃していただろう。  
しかしそれは三つだった。等間隔に並べられた三つの石。

唐突にそこに。

どんなメッセージや目的があって誰がそうしたのは僕には分からない。

ただ僕はそこに誰かがいたことを知った。  
誰かがそこにいた痕跡。見逃してしまうような微かな合図。  
僕が今ここに確かにいるように。誰かもまた。

労働で麻痺していた僕の頭が、ふっと軽くなった。

その瞬間、それまでぼんやりとしていたこの世界が、急にその輪郭をはっきりとさせて目の前に現れた。  
朝日に美しく照らされて。

ほんの些細な事をきっかけに。  
もしその意味を理解したならば、この世界はその姿を一変させる。  
その前にも、その後にも、等しく目の前に変わらずに在ったはずなのに。

それなのに僕は忘れてしまう。またまどろんでしまう。  
だからこそ僕は思い出す為に。  
この世界からの sign を探し続ける。

青柳龍太

報道関係者各位

平素よりお世話になっております。

この度ギャラリー小柳では、2019年8月3日(土)から9月27日(金)の会期にて青柳龍太の初個展「sign」を開催いたします。

「画家が色彩をキャンバス上に配置するように、僕は、色彩と形と質感を空間に配置して一つの景色を作りたい。」青柳龍太は2005年より、自らの感覚により見つけ出し収集したモノを、空間に精緻に配置するインスタレーション作品を発表しています。陶器やガラス器、古道具、くたびれた布地、人形、用途のわからない異国の小品――青柳の審美眼により選び取られるモノは実に多種多様です。しかし、作られた時代も場所も目的も異なるその一つ一つが作家の手により組み合わせられ再構成された時、不思議な調和と緊張感が空間にたちこめます。それはモノの宿命として人の手により世の中に存在し、数多の人の手を渡るうちに重ねられた記憶と時間の気配であり結晶であるかのようです。青柳はこれからも何者かが発する合図を、必然と偶然をはらんだ形あるものを、探し求めると同時に、その合図に気がつく人を待ち続けるでしょう。

近年の主な活動としては、東京都内の個人宅の庭に掘られた防空壕で、青柳は9日間限りの展覧会を行ないました。すでに取り壊されることが決まっていた薄暗い地下空間に明かりを灯し、2015年と2016年に集めたモノをそれぞれの部屋に並べ、「この空間には争いが無い／この部屋には壁がない」と書かれたカードを棚に立てかけて、作家は、あらかじめ約束した時間に集まった数名の鑑賞者を迎えました。美術批評家の榎木野衣氏はこの空間を「茶室」と評し、本質的に茶の精神を突いているとして次のように述べています。

“限られた時間と空間の中から主人の手で選び抜かれ、訪れを待つ「もの」は、招かれた客に絶え間ない問いを発する。しかし答えはない。そのことで見る者は、宙に吊られたかのように、自分が自分であるはずの居場所を失う。しかしその代わり、もうこの空間には争いが無い。あらゆる由来と素性が無差別に共存するから、この部屋には壁もいらぬ。”(榎木野衣「青柳龍太「2015」「2016」展 等価(ともしび)のための茶室」、『美術手帖』2017年3月号「REVIEWS 01」より一部抜粋)

本展では、ファウンドオブジェにより構成される新作のインスタレーションを披露いたします。展覧会の初日、8月3日(土)は午後6時から作家在廊にてオープニング・レセプションを行ないます。ぜひお立ち寄りいただけますようお願いいたします。

資料および図版のご依頼は担当者までご連絡ください。ご掲載の際にはご一報いただけますようお願い申し上げます。

ギャラリー小柳

【広報用図版】



クレジットライン：

© Ryota Aoyagi / Courtesy of Gallery Koyanagi  
(日本語表記) 撮影：三嶋一路  
(英語表記) photo by Ichiro Mishima

【展覧会概要】

作家名：青柳龍太（あおやぎ りょうた）

展覧会名：sign

会期：2019年8月3日（土）～9月27日（金）

[オープニング・レセプション 8月3日（土）18:00～20:00 作家来廊]

開廊時間：11:00～19:00

休廊日：日・月・祝祭日／夏季休廊 8月13日～17日

会場：ギャラリー小柳

東京都中央区銀座1-7-5 小柳ビル9F

Tel: 03-3561-1896 Fax: 03-3563-3236

交通：東京メトロ有楽町線 銀座一丁目駅7番出口より徒歩1分

丸ノ内線・銀座線・日比谷線 銀座駅A-9出口より徒歩5分

URL：<http://www.gallerykoyanagi.com>

お問い合わせ／写真請求先：ギャラリー小柳（担）善名／笠松

電話 03-3561-1896 | メールアドレス [mail@gallerykoyanagi.com](mailto:mail@gallerykoyanagi.com)

【参考資料】

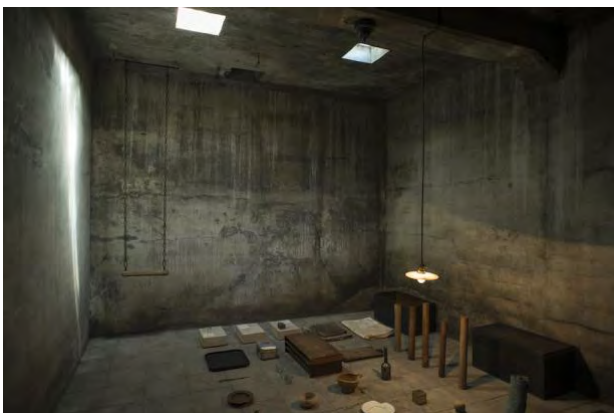
展示風景 青柳龍太「2015」「2016」（2017年）  
© Ryota Aoyagi 撮影：三嶋一路



「2016」



「この空間には争いがない／この部屋には壁がない」と書かれたカード



「2015」

青柳龍太 略歴

1976年大阪生まれ、東京在住。現代美術家。多摩美術大学卒業後、2005年より主にファウンドオブジェを用いたインスタレーション作品の発表を続ける。2010年から近年まで東京・神楽坂の裏路地で骨董商を営んでいた経験があり、骨董や古美術に造詣が深い。2014年、ギャラリー小柳にて杉本博司、ソフィ・カールとともに「UNSOLD」展を開催。2017年、東京都内にある個人宅の防空壕にて個展「2015」「2016」を開催し、完全予約制で9日間のみでの展覧会にもかかわらず多方面から注目を集めた。2018年3月発行の雑誌『美術手帖』よりエッセイ「我、発見せり。」を連載中。